診療行為に関連した包括同意について

【はじめに】

当院では、書面で正式な説明同意をいただく診療項目(同意書あり)と、口頭で説明同意を確認させていただく診療項目(同意書なし)に分けて、対応させていただいております。口頭で説明同意を確認させていただく診療項目は、患者さんへの心身のご負担(侵襲度)も少なく、医師が立ち会う必要がないと判断されるものです。また、患者さんの安全確保を目的とした対応、より良い医療のための多職種によるチームの関わり等、診療を円滑に安全に進めるための項目も含まれます。下記の診療行為に関して、ご理解のうえ、包括的に同意をしていただきますようお願いいたします。

また、診療について疑問がある場合は、担当の医師、看護師、あるいは外来診療棟北館1階「患者総合支援センター窓口」までお申し出ください

【一般項目】

問診、視診、身体診察、体温測定、身長測定、体重測定、血圧測定、リハビリテーション、栄養指導、食事の決定、カメラ等による患部撮影等

【検査・モニタリング】

血液学検査(血液等の採取)、尿・糞便等検査、微生物学的検査(痰・唾液等の採取)、検体の病理・細胞診検査、生理機能検査(心電図検査、脈波検査、呼吸機能検査、脳波検査、超音波検査、筋電図検査等)、X線一般撮影検査、X線透視撮影検査、造影剤を用いないCT検査、心理検査、経皮酸素飽和度測定検査、動脈圧測定検査、モニター(BISモニター:脳波を元に麻酔薬の効果を推定するモニター、筋弛緩モニター等)、皮内反応検査(パッチテスト、皮内テスト、スクラッチテスト、ツベルクリン反応、最小紅斑量測定等)

手術・透析・血管造影等を行う場合の感染症免疫学的検査

(梅毒、B型肝炎、C型肝炎、エイズ(HIV抗体)などの有無を判定する検査、

新型コロナウイルスの感染の有無を判定する血液検査、ウイルス検査など)

【処置】

静脈血採血、動脈血採血、動脈留置針挿入、痰等の吸引、胃管カテーテル、膀胱留置カテーテル、う歯(虫歯)、歯周病、義歯の検査と治療、口腔ケア等の処置、マウスピース作成・装脱着、チューブやドレーン類の固定・脱着、創傷の処置、抜糸、抜釘、小皮膚切開、縫合、ドレーン挿入・抜去、簡単なデブリードマン、涙管洗浄、ブジー挿入、鼻内処置、口内処置、睫毛脱毛、爪切り、点眼処置など

【投薬・投与】

通常の投薬、注射、末梢静脈内留置針挿入(点滴ラインの確保)、持続皮下留置針入、酸素投与、院内製剤の使用

※ 上記の診療行為は、一定以上の経験を有する者によって行われますが、それでも時に出血、痺れ、アナフィラキシー、その他予期せぬ合併症を伴うことがあります。このような場合は、合併症の治療は通常の保険診療として行われます。

あらかじめ、ご理解いただきますよう、お願いいたします。

【服薬内容の伝達】

普段、服薬している薬の種類によっては、一時、服用を中止しないと、手術・処置ができないことがあります。従って、出血を伴う可能性がある手術や処置が予定された時には、服用している薬剤の詳細について、「お薬手帳」等により、スタッフまでお知らせください。服薬内容についてのお申し出がなく、手術、処置が中止となりますと、入院費等の費用が患者さんの負担になる場合があります。(具体的には・・・)手術の

ため入院したが、お申し出なく服用されていた薬剤が、出血を助長する可能性があるものであり、手術前に中止する必要があった。手術は延期となり、一旦退院となった。このような場合の入院費用、給食費用等は患者さんにご負担いただきます。

【調剤薬局等への情報提供について】

薬物療法の安全性向上を目的とした円滑な連携のために、必要に応じて調剤薬局や他の医療機関に対して患者さんの薬歴、副作用歴、臨床検査値、お薬に関する説明内容等の情報を提供させていただきます。

【チーム医療】

当院では、診療科以外に患者さんのケアを充実させるため、院内全体の共通する事柄を横断的にケアすることを推し進めるべく、包括的ケア管理委員会の下に、栄養、褥瘡(床ずれ)・創傷、疼痛緩和、呼吸、入院生活にかかわるケアを担当するケア対策チームを設置して活動しております。そのほか、院長直属のチームとして感染対策、院内救急に従事するチームも活動しています。必要に応じて多職種チームが診療に参加することがあります。

【特定看護師について】

当院では、厚生労働省「特定行為に係る看護師の研修制度」の研修を修了した看護師(特定看護師)が、状態の安定した患者さんに限り、医師の指示に基づいた手順書に沿って安全に配慮しながら診療の補助行為を行う場合がございます。その際には、ご理解とご協力をお願いいたします。

* 診療の補助行為とは：厚生労働省が定める 38 行為(人工呼吸器管理・創傷管理・動脈採血など)

【学生、研修生、初期臨床研修医について】

当院は厚生労働省が定める基準を満たした臨床研修指定病院です。初期臨床研修医(医師)が適切な指導のもと診療行為に関わっております。また、看護、薬学、栄養、リハビリ専門職、臨床検査、救急救命等の医療に関わる多職種の実習病院でもあるため、学生や研修生等が厳重な監督の下に、見学・実習・研修に参加する場合がございます。その際には、ご理解とご協力をお願いいたします。

【診療に伴い発生する情報の利用について】

現在、当院が提供している治療は、現時点でもっとも良いと科学的に評価されている治療法が中心になっています。医療は、研究を積み重ねることによって進歩を続けてきました。そのため、新しい治療法や診断法等を開発する研究には、患者さんから得られる情報が不可欠です。当院でも、診療を行うとともに医学の発展に寄与するような臨床研究や基礎研究を行っており、その際には、診療に伴って発生する情報を利用することが必要な場合があります。患者さんには、ご理解とご協力をいただきますようお願いいたします。

1) << 診療に伴い発生する情報とは >>

当院で診療を受けると、診療録(カルテ)、X線写真、患部の画像等のデータ、血液検査、病理検査、生理機能検査結果(心電図、各種超音波検査、聴力検査、平衡機能検査、呼吸機能検査等)の診療情報が集められます。また、血液や尿等の検査試料、診断のための生検(胃内視鏡検査等の際に組織の一部を採取すること)した試料、手術で切除した組織等の試料が集められます。これらの集められた診療情報及び試料は、診療に必要なものとして、保管されていますが、その後、診療上不必要となった場合でも、医学研究・教育のための大切な情報となります。

当院では、これらの情報を病気の発生、進行、再発、予後等との関わりや、病気に伴う症状、治療の効果、副作用等について研究する目的で利用することがあります。

2) << 情報の提供 >>

当院では、すべての患者さんにこれらの情報のご提供をお願いしています。この情報提供は、自由意思によります。原則として、不同意の意思表示がない場合は、同意をいただいたものとみなして医学教育・研究に利用させていただきます。

3) <<秘密の保持>>

情報の提供によって、患者さんに直接の危険性が及ぶことはありません。しかし、万が一個人情報等が漏れてしまった場合は、患者さんが不利益を被る可能性があります。このため、当院では、考え得る危険性を避けるため、厳重な機密保持の方策を採っています。情報は匿名化して扱いますので、研究責任者及び関係者以外は、患者さんの氏名等と結びつけることはできません。また、研究によって得られた成果を学会や科学専門誌等に発表する場合にも、個人が特定されることはありません。

【宗教と文化】

当院では患者さんの宗教や文化に対し配慮をしておりますが、診療にあたる医療者の性別や宗教食について、希望に沿えない場合もあります。また、「相対的無輸血」治療の方針を決定しておりますので、ホームページ内の施設ガイド⇒ご利用のみなさまへ「輸血を拒否される患者のみなさまへ」のご確認をお願いいたします。

【プライバシー】

カメラ、スマートフォン、ビデオ等による病院内での撮影は、他の方のプライバシーを侵害するおそれがありますので、原則、禁止とさせていただきます。

【その他】

診療に伴い発生する情報につきましては、当院内(カンファレンス・病院運営の向上目的等)で使用することや、教育・研究目的で使用(使用する場合は、個人情報保護法および保護方針、人を対象とする医学系研究に関する倫理指針、各学会の指針およびその他の規程・指針等を遵守します。)することがありますのでご理解とご協力をお願いいたします。

2025年7月
病院長